



2023年2月 VOL.64

# 安心して豊かに生活できる社会であるための 国際連帯と平和教育の実践

～子どもたちに、ものごとを多面的に捉え平和的に解決する力を～



静岡県教職員組合立教育研究所  
国際連帯と平和教育研究委員会

2022年度の研究実践の中から、学校全体（全校）でとりくんだ国際理解教育を紹介します。

## 委員会活動から広がる「国際理解教育」

三島市立北中学校 山田 信彦

「地球市民の育成」をキーワードとして教育実践を行うことを計画しました。そこで本校の委員会活動の内容を工夫・充実させ、連携し全校体制で実践できたものを報告します。

### 子どもの実態

- ・自分の国の生活文化や感覚が「普通」で、それと異なる海外の文化を「変」だと感じてしまう。
- ・「国際化」、「グローバル化」の言葉を学習しても、実際にピンと来ない。

という実態に対して、日常の学校生活の中から世界に視野を広げてみたり、異なるものに共感したりすることで、そのよさを見出す力を身につけてほしいと考えました。

### 【1 学習委員会 × 給食委員会 × 給食のコラボレーション企画「国際の日」のとりくみ】

学習委員会では、ロシアのウクライナ侵攻を発端に「もっと私たちが世界の出来事に関心をもたなくてはいけないのでは？」という意見が出ました。そこで国際理解教育を推進するために「世界の国々を知ろう!」と題し、毎回「31日」を「北中国際理解の日」（「こくさい（31）」と「差異（31）」を認める）で31日に制定）としました。学習委員会・掲示物班では「世界の国々を知ろう!」とテーマとなる国の地理・国旗・言葉・通貨・文化・世界遺産などを調べ、階段に掲示することにしました。しかし、掲示物を作るだけでは、「見る人と、見ない人がいるのでは?」「自分たちの一方的な自己満足で終わらないか」などの意見が出され、どうしたらみんなが関心をもち、意味のある活動になるのかを熟考しました。

そこで「給食」に注目!麻婆豆腐、ナン、豚キムチ炒めなど、毎月アットランダムに出ている世界の料理を「31日の“北中国際理解の日”」として提供することで「掲示と食のコラボレーション」ができるとのアイデアが出され、栄養士と連携ができました。さらに給食委員会も献立の放送時にその国の食文化、調理法や料理名の由来などを紹介し、より一層その国を身近に感じ、料理をおいしく食べることができています。こうして始まった「国際理解の日」、生徒たちからは、「次は、どの国なのか楽しみ!」「国際理解の企画に携わりたくて学習委員会に立候補しました」等の声がありました。



目・耳・舌で世界の国々の文化を学び、子どもたちのアンテナは高まっています。

「国際の日」のテーマ国	世界を知ろう「ワールド給食」メニュー	学習委員会の掲示
5月：中華人民共和国	青椒肉絲、ワンタンスープ	国旗、地理、歴史、通貨、言葉、ことわざ、世界遺産、文化などを調べ、各自のパソコンでまとめて、模造紙にて掲示
7月：ルーマニア	チョルバ・デ・ペリショアレ（お米入り肉団子トマトスープ）、レモンサラダ	
10月：アメリカ合衆国	クラムチャウダー、バッファローチキン	
12月：大韓民国	ビビンバ、わかめスープ	
1月：ウクライナ	ビーフストロガノフ、モルコヴニツェ（にんじんケーキ）	



5月は「中華人民共和国」、7月はALTの母国「ルーマニア」をとり上げました。



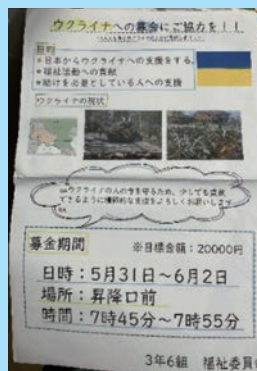
ルーマニアの肉団子スープ

本校の給食調理室は、隣接する中学校にも同じ給食のメニューが提供されています。そのため、本校のみならず、隣接校にもこの国際理解教育の波が広がっています。また、給食献立表に「世界を知ろう！ワールド給食」と明記されることで保護者の方にも関心をもっていただき、「我が家でも外国の料理を親子で作って見ました」「韓国料理のお店に行ってみました」という嬉しい反応もありました。

	世界を知ろう！ ワールド給食	今月のワールド給食は「アメリカ」です。	
	ご飯(麦)・牛乳		牛乳
31 (月)	ハツファローチキン	鶏肉	
	クラムチャウダー	あさり・白花生 ベーコン	牛乳・脱脂粉乳 チーズ
	グリーンサラダ		
	ハロウィンデザート	豆乳・大豆粉	
			人参 小松

## 【2 生徒会本部 × 福祉委員会「ウクライナ募金」のとりくみ】

ロシアのウクライナ侵攻に「関心がある、ない」「身近な出来事として感じる、感じない」「家族で話題にしている、していない」など、認識に大きな差がありました。関心があっても「ウクライナってどこ?」「私たちには、どうしようもないのではないか」と言う声も聞かれました。そこで、生徒会本部と福祉委員会が共同でウクライナ侵攻について昼の放送で伝え、支援を必要としている人を助けようと「募金活動」を呼びかけ実施しました。



1週間で当初の目標額を上回る真心の募金を集めることができました。

こうした「学ぶ・知る」→「関わる・行動する」というとりくみを通して、「自分事として世界の出来事を感じる生徒」「平和の大切さを実感する生徒」「他者の苦しみを自分の痛みとして受け入れようとする生徒」などの実態が見られるようになりました。

## 【3 図書委員会 × 読み聞かせボランティア「本を通じた国際理解」】

上記のとりくみが浸透し始めると図書委員会や司書教諭からも活動に参加したいとの申し出がありました。生徒が取り上げた国の関連書籍を集め、図書室に入ってすぐのよく見えるところにデコレーションをして展示しました。多くの生徒が気軽に本を手にとり読んでいました。

また、保護者の読み聞かせボランティアでも「国際理解」「平和」などに関連した本の読み聞かせを実施していただきました。



## 【4 三島市国際交流室「ウクライナ交流」】

2023年1月、三島市国際交流室の出前授業を通して市内在住のウクライナ出身の方とロシア侵攻後、避難されてきた中学生と「国際理解の日」に交流授業や交流給食会を行いました。異文化に対して双方向の交流をしたり、「世界平和」について考えたりする中で、生徒にとって世界や世界の出来事を身近に感じる良いきっかけとなりました。



## 実践をふり返って

これらの実践は、自分の担当教科や担当するクラスでの実践に限らず、**学校全体（全校）を巻き込んで実践できること**を大切にしたいと思い、「委員会活動から広がる国際理解教育」としました。新しく特別なことをやるというより、通常の活動に「ひと工夫」や「連携（コラボレーション）」をすることで多面的な活動となり、委員会活動の活性化とともに、多くの子どもたちにとって世界の出来事に興味や関心をもつ一助になったかと思えます。教職員の意識の変容や保護者のよい反応も感じられ、こうした活動の有益さを実感しました。

# 静教組立教育研究所が考える「国際連帯と平和教育」

静教組立教育研究所では「いつでも、どこでも、だれでもできる平和教育」を合言葉に教育実践に努めています。

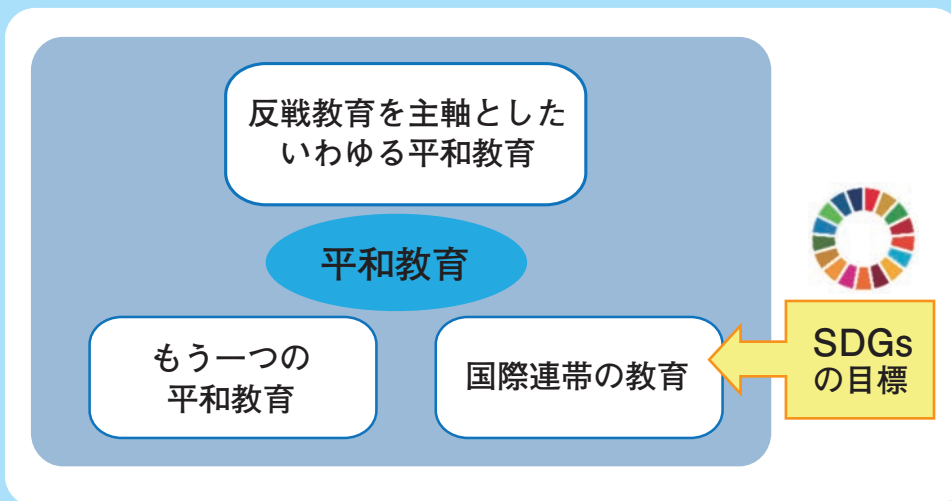
平和教育を広く捉え、子どもや大人が安心して豊かに人間らしい生活ができる社会であることを願い、そのためには平和教育の教育実践はどうあったらよいかを考え研究をすすめています。

**反戦教育を主軸としたいわゆる平和教育** 戦争の悲惨さや惨状、戦争による人権侵害や危機等を学び、戦争は絶対に起こしてならないという教育

**もう一つの平和教育** 争いごとを平和的に解決する力をもった子どもたちを育てる教育

**国際連帯の教育** 一国だけでは解決できない地球規模の問題（地球的問題群）について考え、その解決のために行動する力を涵養する教育

「誰一人取り残さない」持続可能な世界を創るための目標であり、地球規模の問題の解決をめざすものとして、**SDGs** があります。SDGs の視点を加えることで、国際連帯と平和教育の幅を広げることが期待されます。



## 国際連帯と平和教育研究委員会 (2022年度)

### 共同研究者

伊藤 恭彦  
(名古屋市立大学 教授)  
加治 宏基  
(愛知大学 教授)

### 所 員

松山 侑樹 (浜松教組)  
關野 真理 (田方支部)  
山田 信彦 (三島支部)  
岩崎 智宏 (駿東支部)  
柳澤 祐介 (志太支部)  
金田あゆみ (小笠支部)  
三宅 克樹 (湖西支部)

## 安心して豊かに生活できる社会であるための国際連帯と平和教育の実践 ～子どもたちに、ものごとを多面的に捉え平和的に解決する力を～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日／2023年2月

静岡県教育事業団体連絡会  
教育と生活をサポート

一般財団法人 静岡県教職員互助組合

STC 静岡県教職員生活協同組合

STC 静岡県学校生活協同組合連合会

一般社団法人 静岡県出版文化会

公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

株式会社 静岡教育出版社